操縦学総合演習3

科目ナンバー　2E312
HPC　　選択　　1単位

今井　道夫

1. 授業の概要（ねらい）

自家用操縦士の国家試験における口述試験のために必要な知識を学び、その後模擬試験的に個人毎に口述試験を行い、各人が口述試験に合格できるように学びます。この授業は主に実習形式で行います。
ディプロマポリシーDP2・4・5に関連する科目です。

2. 授業の到達目標

自家用操縦士の国家試験における口述試験に合格できるレベルの知識を修得できる。
模擬口述試験を行い、解答要領を修得できる。

3. 成績評価の方法および基準

模擬問題の成績(80%)、取り組み姿勢(傾向と対策だけでなく、知識の定着度)(20%)により評価します。
模擬試験の解答内容に応じて、解答を解説します。

4. 教科書・参考文献

教科書
操縦教本
　ALP
航法計画と飛行要領　ALP
航空法　鳳文書林出版販売ISBN978-4-89279-545-9
AIM－j　日本航空機操縦士協会 ISBN978-4-931160-02-6
飛行規程

5. 準備学修の内容

予習として、事業用操縦士実地試験の科目の実施要領及びその科目を行うために必要な詳細な知識についてノートにまとめておくこと。口述試験の過去問題集に目を通しておくこと（1.5時間）。復習として、この授業と操縦実習を関連させて整理し、毎回ノートにまとめること（1.5時間）。

6. その他履修上の注意事項

授業は下妻へリポートで行います。

7. 授業内容

【第1回】　自家用操縦士の口述試験対策教育
　　実地試験口述科目から試験に必要な項目を列挙し、重点的に教育を行います。
【第2回】　操縦法および改善点口述教育(ホバリング)
【第3回】　操縦法および改善点口述教育（場周飛行）
【第4回】　操縦法および改善点口述教育（空中操作）
【第5回】　操縦法および改善点口述教育（基本計器飛行）
【第6回】　操縦法および改善点口述教育（緊急操作）
【第7回】　口述試験の模擬演習
　　個人又はグループ毎に口述試験形式で質問しながら解答要領を練習し併せて必要事項の教育を行います。
【第8回】　口述試験の模擬演習（整備状況）
【第9回】　口述試験の模擬演習（重量重心）
【第10回】　口述試験の模擬演習（航空情報）
【第11回】　口述試験の模擬演習（気象情報）
【第12回】　口述試験の模擬演習（燃料）
【第13回】　口述試験の模擬演習（安全性）
【第14回】　口述試験の模擬総合演習
【第15回】　試験準備